

2010年 歯科医療に関する1万人市民アンケート結果

目的

全国保険医団体連合会（以下、保団連）は、昨年（2010年）の10月8日から11月8日の1ヶ月間を「イレバデーからイイハデー・全国キャンペーン」として、口腔の健康の意義や重要性を知ってもらい、歯科医療の役割を広く社会的に宣伝・アピールしていくことを目的に、全国各地で入れ歯相談、街頭宣伝、シンポジウム、講演会などに取り組みました。その一環として、国民の歯科医療についての意識や受診動向を調査し、その結果を今後の歯科医療改善に役立てるためにアンケートという形式で初めて実施しました。

調査の方法

全国の保険医協会などが行う、街頭宣伝、集会、シンポジウム、健康祭りや、医科診療所、歯科診療所、市民団体などの協力を得て実施しました。

調査実施期間

2010年10月8日～2010年12月27日

回収数

45都道府県（佐賀県、沖縄県を除く）より、10,129人からの回答が得られました。男女比率は、男性が3,831人、37.8%、女性が6,199人、61.2%でした。（99人性別不明）（※なお、調査実施期間後、100人余から回答をいただきましたが、全体集計には反映していません。）

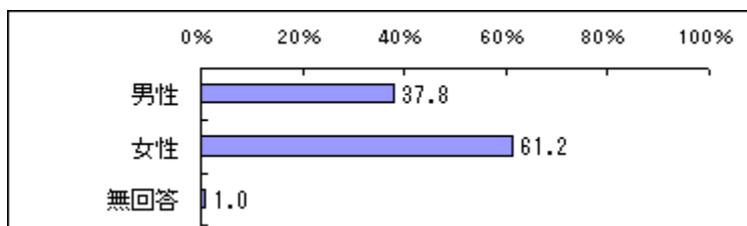
全体の特徴

- 1、日本全国から1万人を超える市民から歯科の受診動向、歯科医療に対する意識調査はかつてないものである。国民全体の歯科医療に対する意識とも捉えられる。
- 2、歯が全身の健康と密接に関連していると9割が回答
- 3、歯科医療に対しては9割超が「保険の利く範囲を広げて欲しい」と回答
- 4、歯科の窓口負担に対しては、5割超が「高い」と回答
- 5、「治療せず放置している」との回答が36%
- 6、「治療しない理由」は「時間がない」「費用が心配」「治療が苦手」の順に回答

各質問項目の単純集計結果

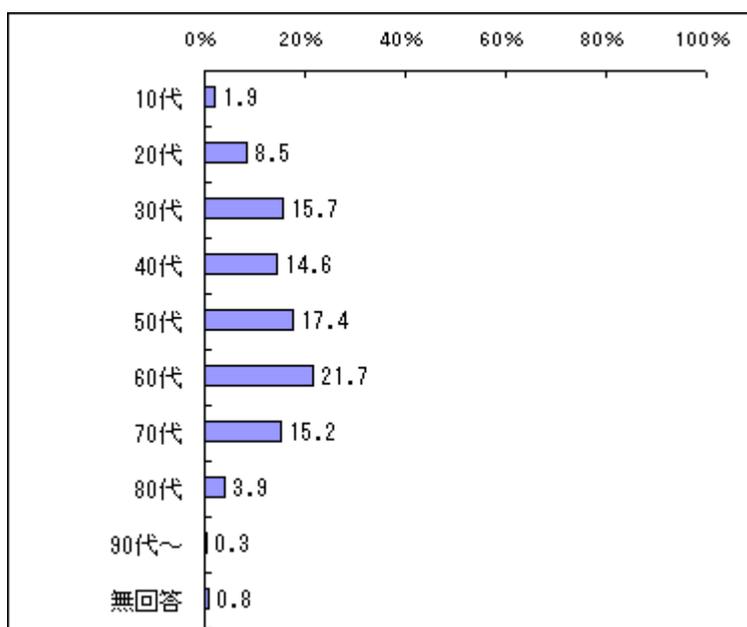
【設問1. 性別】

	回収数	比率
合計	10129	100.0
男性	3831	37.8
女性	6199	61.2
無回答	99	1.0



【設問2. 年齢】

	回収数	比率
合計	(改3)	100.0
10代	194	1.9
20代	864	8.5
30代	1589	15.7
40代	1478	14.6
50代	1767	17.4
60代	2193	21.7
70代	1538	15.2
80代	392	3.9
90代~	34	0.3
無回答	80	0.8



【設問3. 現在歯科医院に通院していますか】

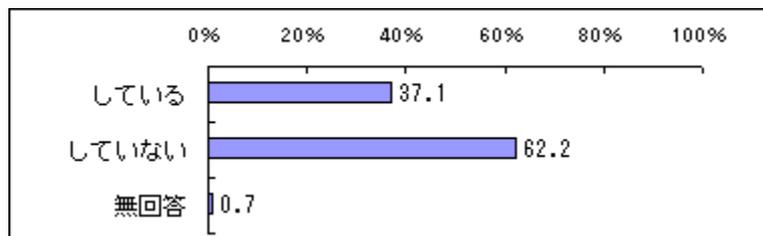
歯科医院への通院状況は、現在通院していると回答した人は全体の37.1%、通院していない人は62.2%。男性、女性で通院比率に大きな差はなく、女性が2.0ポイント高い程度。通院中を年代別で見ると、70代が最も高く53.0%、約半数の人が通院中であると回答。70代をピークに20代までは、年代が下がるごとに通院率も下がっている。10代は通院比率が高くなり(34.5%)、50代(36.0%)と同程度になっている。地域別で通院比率を見ると「北海道地方」が26.9%で最も低く、「中部地方」が44.4%で最も高くなっている。

(コメント)

年代別では10代34.5%、20代22.5%、30代24.9%、40代27.2%、50代36%、60台45.3%、70台53%、80台52%、90台32.4%となる

このうち、10代が高いのは学校健診などをきっかけとした受診や、子ども医療費の助成制度など通院しやすい環境があるからではないか。20代から40代までが20%台と低いのは残業や仕事での受診のしづらさや、3割負担が重いなど通院しにくい状況等が考えられる。更に通院比率では北海道が低く、中部地方が高くなっているが、これは県民所得と医療費負担に相関関係があることが推測され、歯科受診が経済動向に大きく左右されることを示している。

	回収数	比率
合計	10129	100.0
している	3755	37.1
していない	6300	62.2
無回答	74	0.7



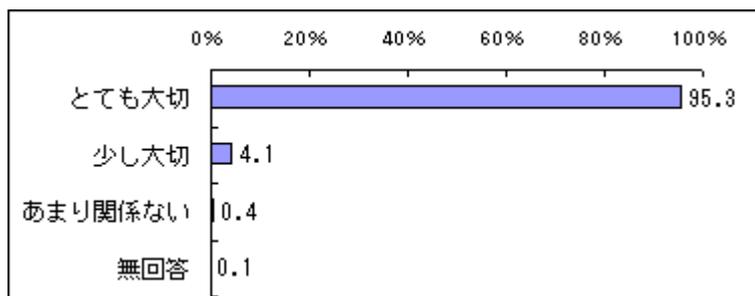
【設問4. 歯は全身の健康にとって】

歯は全身の健康にとって大切かという問いに対しては、「とても大切」と回答した人が全体で95.3%。「少し大切」と回答した4.1%を合わせると、99.4%の人が大切だと回答している。男性と女性で比較すると「とても大切」と思っている比率は女性のほうが3.2ポイント高い。

(コメント)

保団連の「より良く食べるはより良く生きる」(30万部発行)の普及などをはじめ、学校教育や新聞、テレビ等のマスコミを通じて、歯と全身の健康との関連が広く周知された結果、歯と全身の健康の関連や重要性の理解が国民の中に広がっていることがほぼ100%の高い数値を生んでいるのではないかと推測される。

	回収数	比率
合計	10129	100.0
とても大切	9658	95.3
少し大切	419	4.1
あまり関係ない	45	0.4
無回答	7	0.1



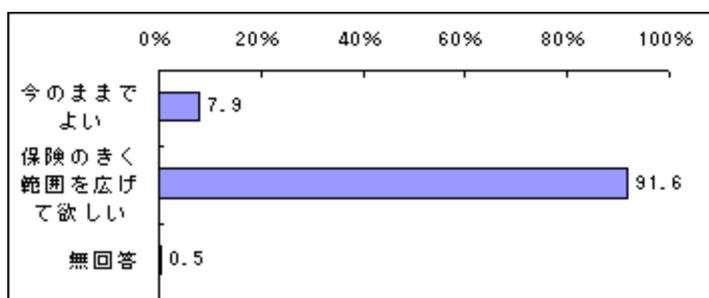
【設問5. 歯の治療には保険のきかない治療がありますが、どう思いますか】

保険のきかない治療に対しては、全体で91.6%の人が「保険のきく範囲を広げて欲しい」と回答している。男性と女性で「保険のきく範囲を広げて欲しい」回答を比較すると女性の比率(93.0%)が男性の比率(89.4%)を3.6ポイント上回っている。年代別に見ると、20代～60代までは「保険のきく範囲を広げて欲しい」比率が90%を超えている。特に働き盛りの30代(95.0%)、40代(94.8%)の比率が高い。地域別に見ると、北海道地方と四国地方が「今のままでよい」の比率が10%を超え、他の地域と比べ高くなっている。通院中の人と通院していない人では通院中の人「今のままでよい」比率が10%であるのに対し、通院していない人は6.6%。

(コメント)

9割を超える回答が歯科の「保険のきく範囲を広げて欲しい」となっており、過去の調査(厚労省・平成11年保健福祉動向調査35.8%、「保険で良い歯科医療を」全国連絡会・平成18年患者アンケート調査79.1%)と比べても断然高く、歯科医療に対する国民共通の切実な要求と捉えられる。このことは、歯科医療における自費治療が放置、固定化された結果、保険外の自費治療が一向に「保険に導入されていない」という歯科医療に対する厚生行政の立ち遅れを示している。(別紙資料・参照)

	回収数	比率
合計	10129	100.0
今のままでよい	801	7.9
保険のきく範囲を広げて欲しい	9279	91.6
無回答	49	0.5



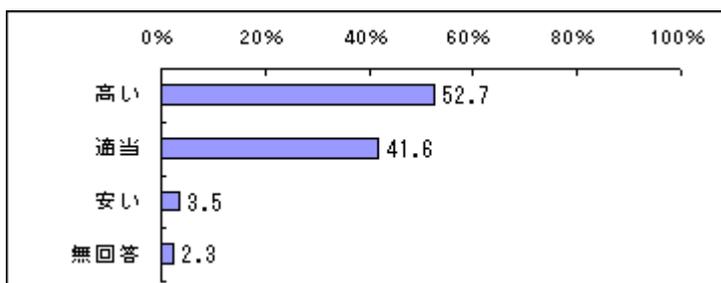
【設問6. 歯科の保険の窓口負担は】

歯科の保険の窓口負担については、全体で52.7%が「高い」と回答しており、「適当」(41.6%)と「安い」(3.5%)を足した45.1%を上回った。男性と女性で比較すると、「高い」と回答した比率は女性(53.5%)が男性(51.4%)の比率を2.1ポイント上回っている。年代別で見ると、10代~40代までは年代が上がるごとに「高い」と答えた比率が上がっているが、50代~90代までは年代が上がるごとに「適当」と回答した比率が上がっている。地域別に見ると、「高い」と回答した比率がもっとも高かったのが「関西地方」の56.1%。通院中と通院していない人では「高い」と回答した比率は通院中の人の46.7%に対し、通院していない人が56.4%で9.7ポイント上回っている。

(コメント)

歯科の窓口負担について5割強が高いにとどまっているが、50代以上の年代で「適当」の比率が上がっていくことは、高齢に伴い補綴治療が増加せざるを得ないが、保険治療の一方で高額な自費治療が現実には存在することから、高額な自費治療費と比べれば保険治療は「適当」と捉えてしまっているのではないか。

	回収数	比率
合計	10129	100.0
高い	5336	52.7
適当	4210	41.6
安い	353	3.5
無回答	230	2.3



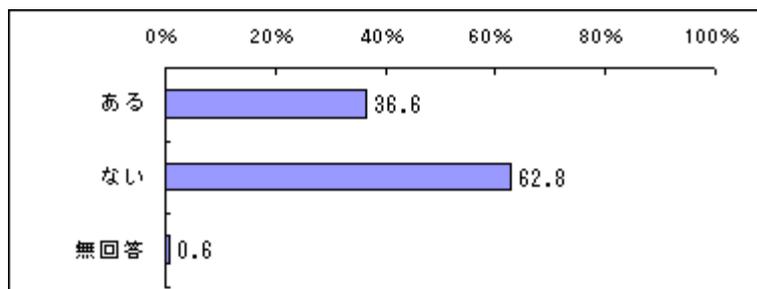
【設問7. 治療をせずそのまま放置しているところがありますか】

治療をせずそのまま放置しているところがありますかとの問いに対して、全体の36.6%の人が「ある」と回答している。男性と女性を比較すると男性の比率(40.6%)が女性の比率(34.1%)を6.5ポイント上回っている。年代別で見ると20代~50代までが治療を放置している比率が40%を超えている。10代が最も放置している比率が低く26.8%。地域別に見ると、治療を放置している比率が最も高いのが「東北地方」の45.7%。最も低いのが「中部地方」の31.0%。

(コメント)

4割弱が「放置している」との回答は深刻である。特に20代~50代で40%を超えている事態は緊急に改善が求められる。早期治療を行わず放置することで重症化し、結局医療費も当然増加してしまう。齲蝕、歯周病など自然治癒が見込めない歯科医療では、自分の歯を残すためにも、医療経済の面からも早期発見・早期治療が大切であり、治療の「放置」を改善することは大きな課題といえる。

	回収数	比率
合計	10129	100.0
ある	3710	36.6
ない	6359	62.8
無回答	60	0.6



【治療をしない理由】

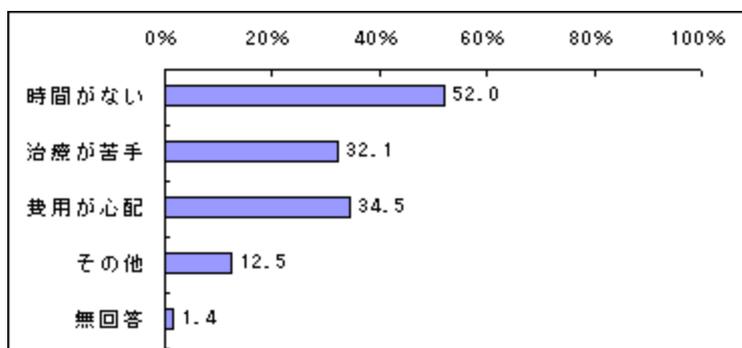
治療しない理由については、全体では「時間がない」が52.0%で最も高く、次いで「費用が心配」が34.5%、「治療が苦手」が32.1%と続く。男性と女性を比較すると、「時間がない」では男性(54.6%)が女性(50.1%)を4.5ポイント上回っており、「治療が苦手」では女性(34.6%)が男性(28.5%)を6.1ポイント上回っている。「費用が心配」では男性(34.4%)と女性(34.6%)でほとんど差はない。地域別で見ると、「時間がない」では「東北地方」が61.2%で最も高く、「治療が苦手」では「中部地方」(38.4%)、「費用が心配」では「北海道地方」(49.4%)が最も高かった。

(コメント)

不況と格差社会の拡大から「時間がない」を理由とした治療の放置が最も多い理由となっている。このため、残業を減らす、就労中の受診を保障するなど受診が行いやすい労働環境などの改善が求められている。また、「費用が心配」は、3割の窓口負担が重いと感じているだけでなく歯科に自費診療があることから、医療費への負担感が歯科の通院を大きく妨げていることを示している。

一方「治療が苦手」も治療を妨げている大きな理由とされている。痛みの軽減、患者への接し方等々、医療機関側の技術的改善や努力がこの面では求められている。

	回収数	比率
合計	3710	100.0
時間がない	1930	52.0
治療が苦手	1190	32.1
費用が心配	1279	34.5
その他	462	12.5
無回答	52	1.4



2、クロス集計概要

Q4 歯は全身の健康にとって大切だと思いますか

◆性別・年齢別

歯は全身の健康に「とても大切だと思う」と回答した人は全体で 95.3%（男性は 93.4%、女性は 96.6%）で「少し大切」と回答した 4.1%を合わせると 99.4%の人が大切だと回答している。「とても大切だと思う」比率が最も高かったのが 60 代の 97.4%、最も低い 10 代（87.6%）より 9.8 ポイント高くなっている。

「とても大切だと思う」比率を通院中と通院していない人で比較すると、通院中の人の回答（97.0%）が通院していない人の回答（94.3%）よりも 2.7 ポイント高くなっている。

Q5 歯の治療には保険のきかない治療がありますが、どう思いますか①

◆性別・年齢別

保険のきかない治療についてどう思うか聞いたところ、全体で 91.6%が「保険のきく範囲を広げてほしい」と回答している。男女別に見ると、男性は 89.4%、女性は 93.0%の人が「保険のきく範囲を広げてほしい」と回答している。

年代別にみると 10 代～40 代までは年代が上がるごとに「保険のきく範囲を広げてほしい」比率が増える傾向にあるが、50 代以降は年代が上がるごとに「今のままでよい」比率が増える傾向にある。

また、通院中の人と、通院していない人で比較すると、「通院していない人」の 93.0%が範囲を広げてほしいと答えており、「通院中」の 89.5%を 3.5 ポイント上回っている。

Q5 歯の治療には保険のきかない治療がありますが、どう思いますか④

◆治療を放置している、放置していない別

保険のきかない治療に対する意識を「歯の治療をせずに放置しているところがある人」と「放置しているところはない人」で比較すると、「放置しているところがある人」の 94.3%が保険の範囲を広げて欲しいと回答しており、「放置しているところがない人」（90.2%）を 4.1 ポイント上回った。

Q5 歯の治療には保険のきかない治療がありますが、どう思いますか⑤

◆治療をしない理由別（費用が心配）

治療をしない理由で「費用が心配」と答えた人の 97.4%が保険のきく範囲を広げて欲しいと回答している。

Q6 歯科の保険の窓口負担は①

◆性別・年齢別

保険の窓口負担について聞いたところ、全体では「高い」が 52.7%、「適当」が 41.6%。「安い」が 3.5%と回答している。「高い」を男女別で見ると、女性（53.5%）が男性（51.4%）を 2.1 ポイント上回っている。年代別で見ると 10 代～40 代までは年代が上がるごとに「高い」という比率が上がっているが、50 代以降は年代が上がるごとに「適当」という比率が上がっている。

通院中の人と、通院していない人で比較すると、「通院中」では 46.7%が「高い」と答えているが、「通院していない人」では 56.4%が「高い」と答えており、「通院中」

よりも 9.7 ポイント上回っている。

Q6 歯科の保険の窓口負担は④

◆治療を放置している、放置していない別

保険の窓口負担について、「歯の治療をせずに放置しているところがある人」と「放置しているところはない人」で比較すると、「放置しているところがある人」の 64.0% が保険の窓口負担が「高い」と回答しており、「放置しているところがない人」(46.3%) を 17.7 ポイント上回った。

Q6 歯科の保険の窓口負担は⑤

◆治療をしない理由別(費用が心配)

保険の窓口負担について、「治療をしない理由別(費用が心配)」で見ると、85.2% が保険の窓口負担が「高い」と回答しており、全体の 52.7% を 32.5 ポイント上回っている。

Q7 治療をせずにそのまま放置しているところがありますか①

◆性別・年齢別

治療せずにそのまま放置しているところが「ある」と答えたのは全体で 36.6% (男性 40.6%、女性 34.1%)。男性の比率が女性よりも 6.5 ポイント上回っている。年代別で見ると、20代が治療を放置している比率が 44.7% で最も高く、10代(26.8%) が最も低い。

Q8 治療しない理由①(複数回答)

◆性別・年齢別

「治療しない理由」について、全体では「時間がない」が 52.0% でトップ。次いで「費用が心配」が 34.5%、「治療が苦手」が 32.1% と続く。男女別で見ると、「時間がない」では男性(54.6%)が女性(50.1%)より 4.5 ポイント上回っている。「治療が苦手」では女性(34.6%)が男性(28.5%)を 6.1 ポイント上回り、「費用が心配」では男女差はほとんどない。

年齢別に見ると、「治療しない理由」の最も高い比率が、10代～60代までは「時間がない」、70代では「費用が心配」、80代では「治療が苦手」、90代は「その他」としている。